施設名	青梅市火葬場		
指定管理者名	富士建物管理・富士建設工業共同体（構成員）富士建設工業株式会社		
指定管理期間	令和6年4月1日～令和7年3月31日	担当課	市民課
設置目的	墓地、埋葬等に関する法律（昭和23年法律第48号）にもとづき、公衆衛生その他公共の福祉の見地から死体の火葬を支援なく行うため。		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	市評価	評価理由		
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行（清掃・巡回回数など）は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告書 日報 月報	S	火葬件数増加に伴い火葬炉設備においては、より入念に日々点検を履行しました。年末に発生した流量計の不具合は速やかに工務課に報告し指示を仰ぎ対応・調整を行ないました。	S	火葬件数はR5に比べ増加しているなかで、適正な人員配置や、定期的かつ十分な清掃など、適正な管理が行われていた。年末年始の火葬枠の突発的な増加についても積極的に実施していただいた。また緊急対応ができる準備を常に行っているなど、仕様以上の業務を行っていた。	
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	事業報告書 月報	A	報告業務を伴う事案は速やかに報告その指示に従いました。	A	日報、月報等の定期的な報告や、大雨時などの被害状況の報告は迅速に行われていた。	
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	現地調査 日報	S	火葬場施設区域内・隣接する都市地・墓地公園内におきましては、公園内を管理されている清掃業者様と連携を図り安全を確保いたしました。	S	危機管理マニュアルの整備や訓練などを行い、巡回や機械警備による安全性の確保を行っていた。施設の安全性について常に考慮しており、市に対して積極的な提案を行っていた。	
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	事業報告書 月報	A	個人情報保護を遵守し、事務室窓口への火葬の問い合わせ等には細心の注意を払いお答えしております。報告は義務と理解し、速やかに報告いたしました。	A	個人情報保護は適正に行われ、問合せ等に対しても、個人情報の漏洩のないよう対応していた。書類等の管理にも問題は見られず、市への報告は必要時または定期的に行われていた。	
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	日報 現地調査	S	業務記録は適正に作成・整理・保管を行っております。職員全員で認識を共有し問題なく業務にあたりました。	S	月報、日報、または緊急案件等の記録を行っております。報告された内容に不備は見当たらず、整理された内容であった。	
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	マニュアル 連絡網	A	富士建設工業㈱が管理運営している近隣畜場との連携が可能です。危機管理マニュアル・土砂災害対応マニュアル・緊急連絡表を設置しています。	A	緊急時のマニュアルの整備、連絡体制、急病や退職などの際の従事者の補充などの体制を整えていた。	
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等は行っているか。	事業報告書 現地調査	A	防災訓練2回実施（火災と土砂災害を想定したものを各1回）。避難誘導、御会葬者様への声かけ等再確認し、避難誘導時に使用する機器の動作確認も併せて行いました。	A	消防訓練や災害時の対応の研修、シミュレーションなどを行っていた。また機器の動作確認も行っている。	
		適切な財務・財産管理 適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	事業報告書 月報 現地調査 ヒアリング	A	火葬炉設備・火葬場施設区域内におきまして火葬炉設備チェックシート・火気類チェック表にて、日々管理しております。必要時修繕いたしました。	A	保守点検の実施など、備品等の財産管理は適切に行われ、予期せぬ故障や破損については、即時報告、修繕を行っていた。	
事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業報告書 月報	A	公平性を重視しサービスの提供に努めてきました。業者様よりのご指摘は今年度は見受けられませんでした。職員全員 優心する事無く日々の業務にあたって参ります。	A	事業計画どおりのサービスを提供し、支障なく業務を遂行できている。利用者からの苦情等も聞かない。	
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか（環境の変化など外部要因を考慮）	事業報告書 月報	S	今年度の火葬件数は2,224件（前年度比+158件）と変わらず高い水準となっております。今後も火葬件数の増加が見受けられると考えますが変わらぬサービスの提供を行います。	A	ここ数年で利用件数は増加傾向にある。新型コロナウイルス感染症の影響が少なくなったことで利用件数は増加しているが、サービスの質は維持できている。	
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	アンケート ヒアリング	A	葬儀社様とはコミュニケーションをとる様になりました。アンケートボックスに5件のご意見を頂き、内容を尊重いたしました。	A	アンケートBOXを常時設置して利用者意見の収集を行っており、収集した意見及び対応は事業報告書にて報告されている。今後はアンケートBOXの位置をわかりやすく等して提出数を増やす事に期待したい。	
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	現地調査 ヒアリング アンケート	S	御会葬者様より感想のアンケート用紙で「場内の案内が丁寧だった。」と感想をいただきました。引き続き好意を感じて頂けるサービスを提供して参ります。	S	アンケートのコメントで、対応方法を評価されていた。利用者の安全、満足度向上のための自主事業を積極的に行っていた。葬祭業者への協力要請により、火葬がよりスムーズに行えるよう努めていた。	
		利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	アンケート ヒアリング	S	「待合室に子供用の椅子が欲しい。」のご意見をいただきました。必要に応じて御利用頂ける様、倉庫内に2脚準備をしました。実際に御利用頂いた御会葬者の方より感謝の言葉をいただきました。	S	例年アンケートの提出数が少なく利用者からの直接の意見集約は難しい状況が続くが、受け取った意見については改善できるものは改善している。
		行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告書 月報	S	年末年始に4日間、8件の火葬枠の増枠を行ないました。令和7年度も必要に応じて市役所の方と密に意見交換を行ないながら臨機応変に対応して参りたいと考えます。	S	市民優先が求められるなかで、年末年始の火葬枠の増加について、急な要請にも関わらず、市と連携しながら、積極的に協力いただいた。
		その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	事業報告書 月報	A	施設利用された全ての業者様の公平性を保ち進捗しました。樹林墓地焼骨受付業務を滞りなく遂行しました。また、使用燃料などの低減も日々の業務の手法の見直しを意見交換しながら引き続き取り組みました。	A	施設の維持、地域貢献、公平なサービスの提供など、提案された内容の実施に努め、提案とおりに実施できた。

会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	帳簿類 現地調査	A	会計に関する帳簿、書類の整備及び保存は適正に行っております。	A	会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされていた。
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	事業報告書 現地調査	A	動物火葬受付書の交付に伴う徴収金はノートに記載し現金は施錠管理しております。	A	現金等の管理は適正にされていた。
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	事業報告書 帳簿類	A	令和6年4月に購入した火葬場の施設消耗品において、購入先の請求書発行間違いの為に収支報告書の記載から漏れてしまう事象が発生いたしましたが、それ以外適正に行いました。	A	決算額について、ほぼ予算額どおりであり、適正な予算執行を行っていた。
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	決算報告書	S	経常利益率15.2%とプラスである為。	S	経常利益率がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	決算報告書	S	自己資本比率が77.2%と30%以上である為。	S	自己資本比が30%以上となっている。
	流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。	決算報告書	S	流動比率が404.6%と100%以上となっている為。	S	流動比率が優良と言われる200%を大きく越えていた。	

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数	記入欄
S	10	<p>前年度より引き続き市民の皆様へ「やすらぎをもって、安心してご利用いただける施設」であることを念頭に日々業務を遂行して参りました。また変わらぬ燃料高騰に鑑み可能な限り使用燃料を低減させつつ、昨今の環境保全の意識の高まりにも目を向けた施設運営を念頭に今後も日々の業務を行ないます。令和6年度より分骨証明書の発行方法を変更し、以前は御会葬者の代表者様に用意して頂いていた印鑑を不要にし、より利便性の向上を計りました。これから到来する多死社会を見据え火葬枠の増加や友引火葬の実施など必要と思われる施策は青梅市様と意見交換を密に重ね安心してご利用頂ける環境を整備し対応して参ります。</p>
A	11	
B	0	
C	0	

2 市の評価、意見等

評点	数	記入欄
S	9	<p>協定や事業計画の仕様は遵守されていた。さらに、利用者満足度向上のために、葬祭業者の意見聴取や協力要請などにより、スムーズな火葬進行やサービス向上に努めていた。問題発生や、苦情等があった場合も、利用者の立場を最優先に考え対応する真摯な姿勢が見られた。また年末年始において火葬枠が不足しているなかで、火葬枠の増枠にも協力を頂いた。</p> <p>斎場と火葬場は、富士建物管理・富士建設工業共同体が令和6年度から令和10年度まで指定管理者として、施設運営を行う。前指定管理期間以上に共同体として斎場と火葬場の連携をとって業務を行う姿勢が見られ、今後さらなる連携が期待される。</p>
A	12	
B	0	
C	0	